

通信

3

共生のための コミュニケーション



ブラザー工業株式会社
取締役会長

安井 義博氏
(やすい・よしひろ)

著作権の関係上、表示できません。

テレビ電話付きの携帯で孫と話ができる世の中になった。子供の頃に読んだSF小説が現実になっていく感だ。やはり21世紀だなと思う。百年前であれば、人ひとりが一生のうちに取り得るコミュニケーションの量はずっと少なかっただろう。しかし、ITが発達した現代においても「正しく伝える」ことは容易ではない。伝えるべき相手に正しく伝えてこそインフォメーションがコミュニケーションとなる。つまりITではなくICTでなくてはならない。

当社はCSRの考え方をグループ経営の中核におき、「すべてのステークホルダーから尊敬され、従業員にとって誇りの持てる企業になる」ことをめざしている。もちろん製造業としてお客さまに良い製品とサービスを提供するということが最も基本的なことだが、企業が持続的に発展していくためには「お客様」「従業員」「株主」「パートナー」「環境」「社会」というステークホルダーとの関係のバランスが重要だ。

「ご存知の方も多いと思うが、CSR、ステークホルダー、という言葉が生まれる前から日本には「三方よし」という素晴らしい経営理念がある。近江商人が家訓とした「売り手よし、買い手よし、世間よし」という考え方は事業を長い時間軸で見たところが卓越している。売り手、買い手、世間の絶妙なバランスをとりながら、近江商人は鎌倉時代から現代にまで続く系譜となり今もなお日本の経済を支える数々の大企業として栄えている。

企業とステークホルダーは決して、提供する側される側という一方通行の関係ではないはずだ。お互いを生かす関係であることに気づくには、個人であっても法人であっても心を通わす真摯なコミュニケーションが不可欠と思う。来年は創業百周年となるが、創始者の時代から当社を取り巻くすべての皆様がブラザーを生かして下さったことに深く感謝し、これからステークホルダーと心からのコミュニケーションをとりながら企業の存在価値を高めていきたいものだと思っている。